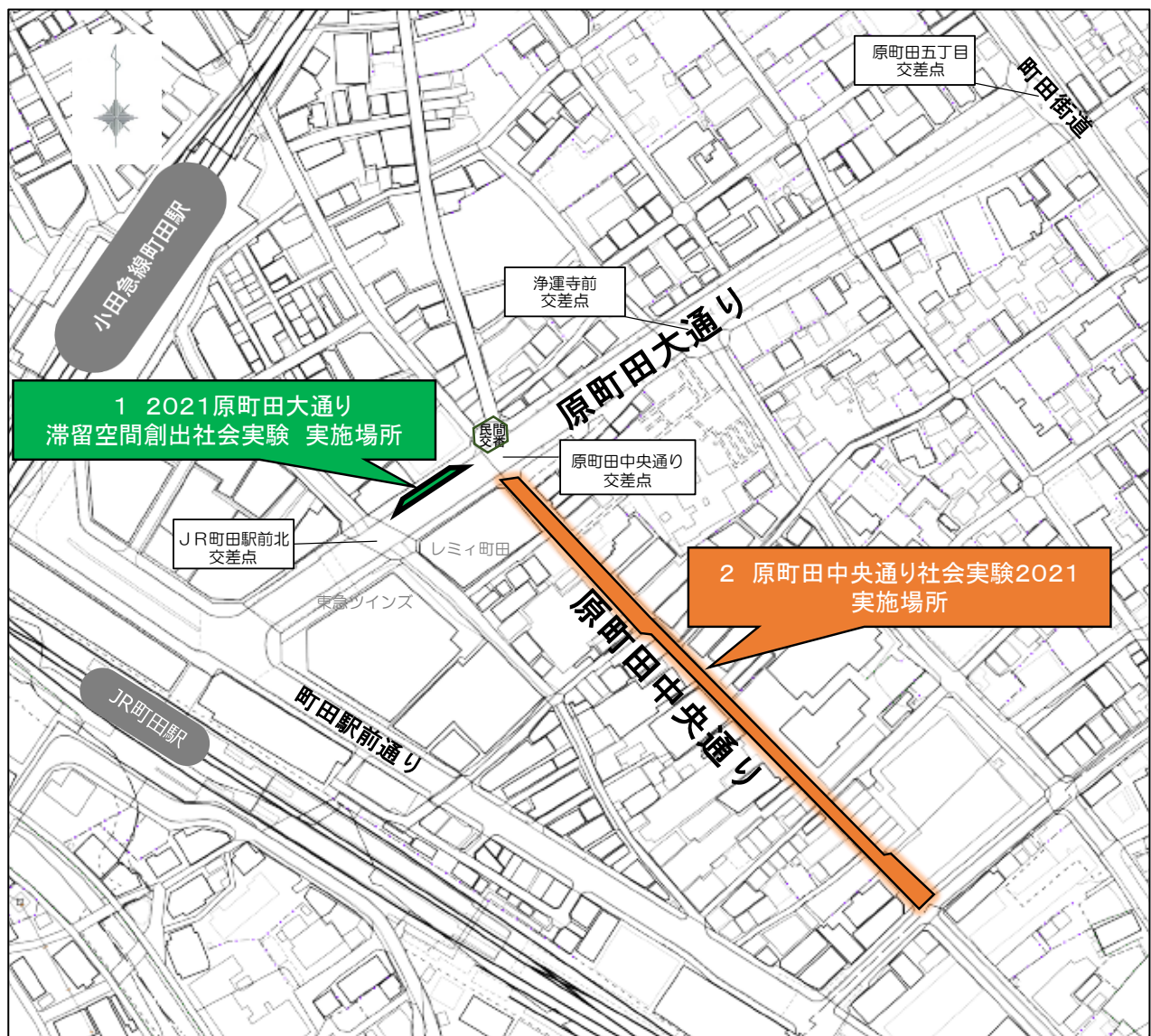


原町田大通り及び原町田中央通りにおける社会実験の実施結果について

町田駅周辺地区都市再生整備計画（計画期間：2021年度から2023年度）に基づき2021年11月20日（土）から12月20日（月）まで実施した、原町田大通り及び原町田中央通りにおける社会実験の実施結果について報告します。

- 1 2021原町田大通り滞留空間創出社会実験～もしも原町田大通り～ 【資料1】
- 2 原町田中央通り社会実験2021 ENJOY! STREET! 【資料2】

【位置図】



まちだの未来、実験中。

資料1

2021原町田大通り滞留空間創出社会実験

もしも原町田大通り

—もしも原町田大通りが、「 」だったらうれしい。—

報告書 < 速報版 >

2022年 1月



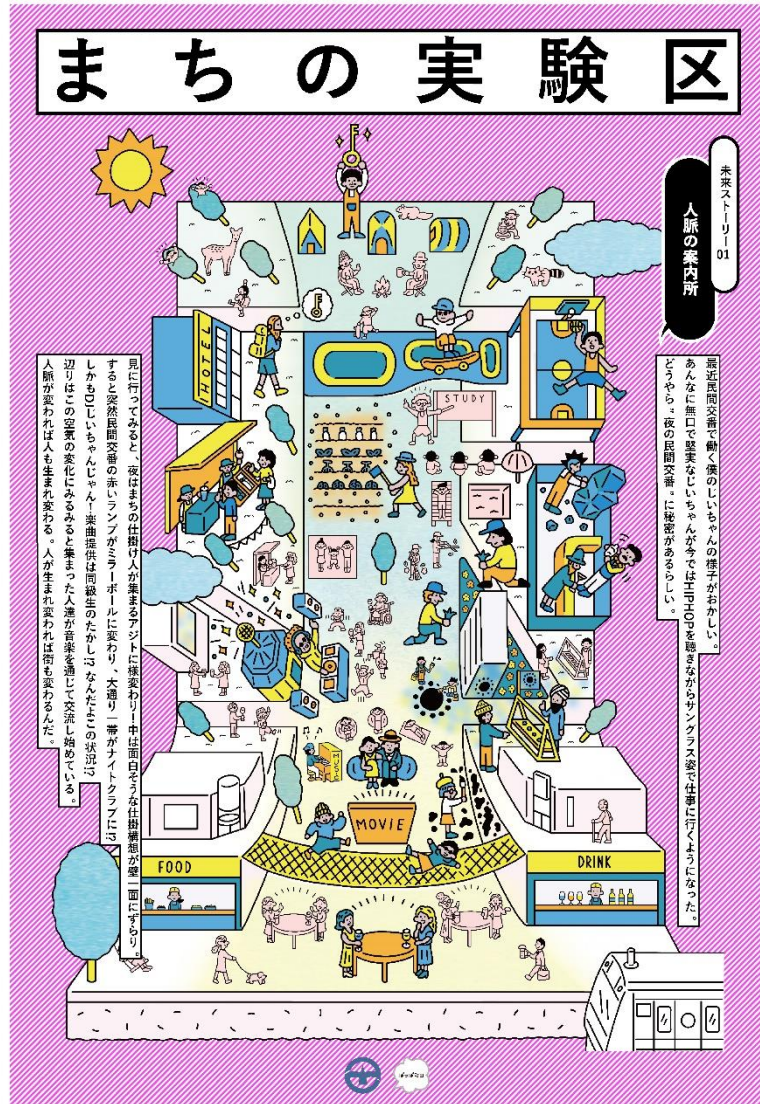
町田市 町田まちづくり公社

取組みの背景

町田市とまちづくり公社では、まちの活動を豊かにする取組みを進めています。

■ まちの実験区

まちや市民のみなさんの活動が豊かになることを目指し、原町田大通りを「まちの実験区」と位置付け、様々な実験を行っていく取組みです。



楽しみ・わくわく・
おどろきに満ちている



自分の場所だと
感じられる

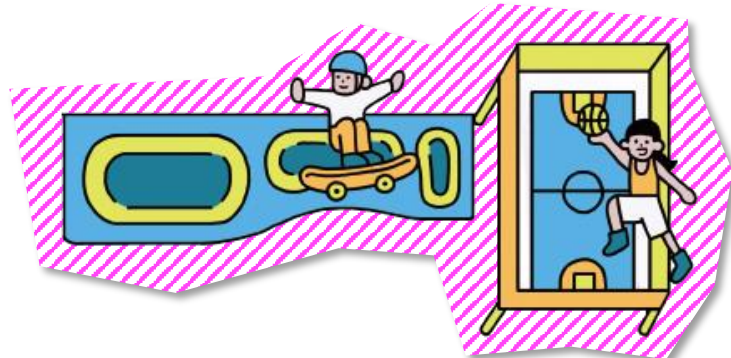
食べたり、飲んだり
できる場所がたくさんある



今までできなかったことが
自由にできる



ただ、そこにいたくなる
ことができる



開催概要

原町田大通りの道路上の一部を占用し、滞留空間として約1か月間開催しました。

実験名称 | 2021原町田大通り滞留空間創出社会実験

実施目的 | 2021年度から2023年度までを計画期間とする町田駅周辺地区都市再生整備計画で掲げている目標「賑わいや交流に溢れるまちの実現」の達成に向け、「多様なアクティビティが生まれる空間の創出」を目指し、町田市と株式会社町田まちづくり公社が共同で社会実験を行った。

実施期間 | 2021年11月20日(土)～12月20日(月)

利用時間 | 8時～18時

主催 | 町田市経済観光部産業政策課／株式会社町田まちづくり公社

協力 | 一般社団法人町田市緑化協会／株式会社オンザウェイ

実施場所 | 原町田大通り（町田市原町田6丁目）



■ 位置図



■ 開催スケジュール



東急ツインズ連絡デッキより俯瞰

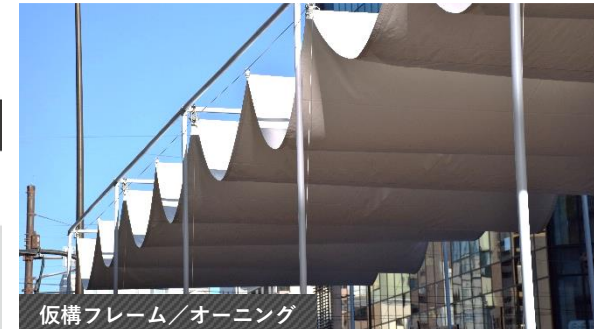
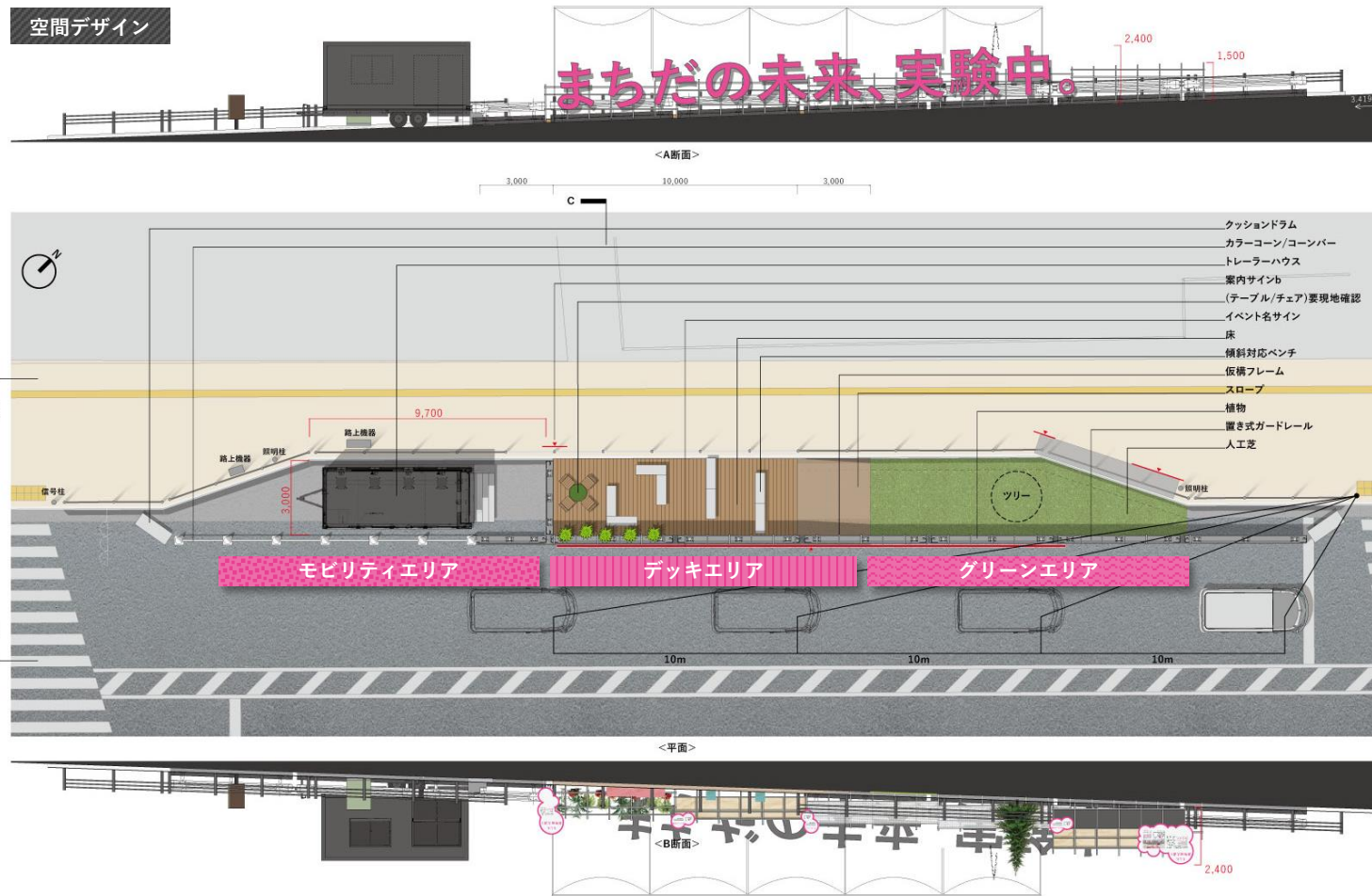


原町田大通りの歩道よりアイレベル

デザイン

居心地の良さやイベントとしての楽しさをつくるために工夫を行いました。

空間デザイン



仮構フレーム/オーニング



デッキ床/傾斜対応ベンチ



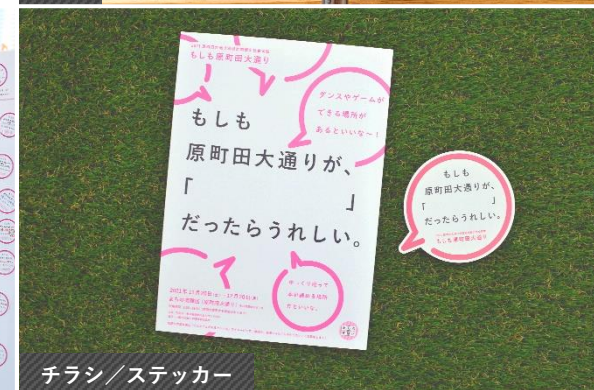
植物



イベント名サイン



案内サイン/掲示板



チラシ/ステッカー

企画内容

町田で活動されている方々の協力を得て、11の企画を実施しました。

- 1 町田トレインコネクション | 町田トレインコネクションさん
- 2 きんじょの本棚青空会議 | きんじょの本棚さん
- 3 「マチノネ」ライブ | まちだ大学ラジオ放送局さん
- 4 「きんじょの本棚」トークライブ | まちだ大学ラジオ放送局さん×きんじょの本棚さん
- 5 まちの実験区PR | 3411LAB×町田市モノレール推進室
- 6 芹ヶ谷公園パークミュージアム | 町田市（芹ヶ谷公園チーム）
- 7 市民ホールPRキャラバン | 町田市文化・国際交流財団さん
- 8 「きんじょの本棚」まちの実験区店 | 3411LAB×町田まちづくり公社
- 9 原町田大通りが〇〇だったらうれしい | 3411LAB×町田まちづくり公社
- 10 ゲームセンター | 3411LAB×町田まちづくり公社
- 11 クリスマスツリーを飾ろう | 町田まちづくり公社



利活用の様子

普段の大通りでは目にすることのない、様々な使われ方がなされていました。

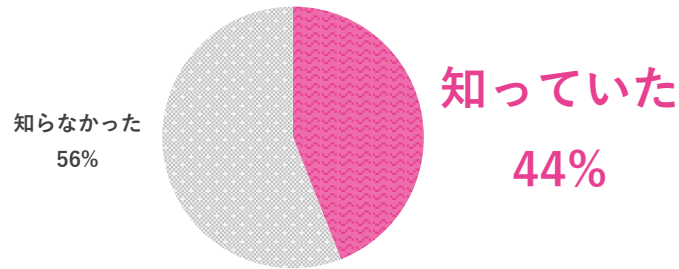


調査結果

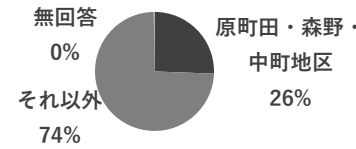
各種調査を実施し、利用実態の把握を行いました。

■ アンケート調査 <有効回答数：446>

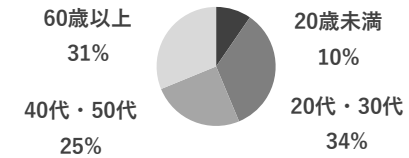
利用者の社会実験の認知度



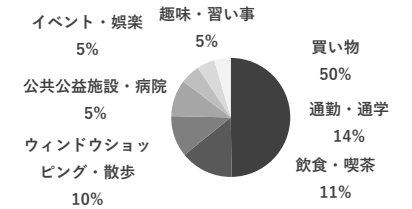
利用者の居住地域



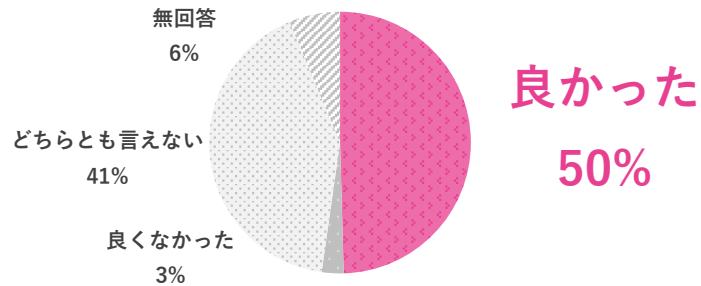
利用者の年齢



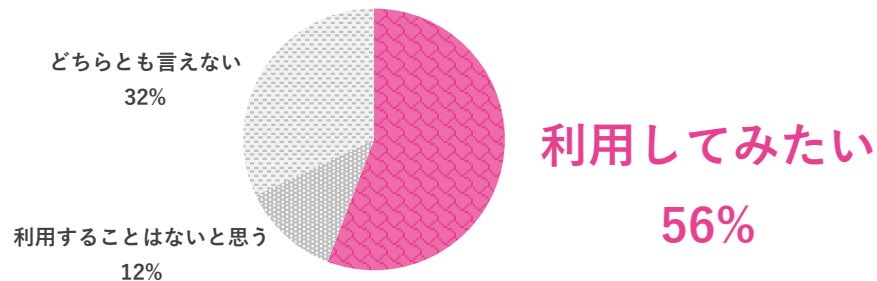
利用者の来訪目的



利用者の感想

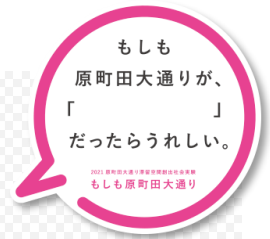


歩行者（非利用者）への質問



■ ステッカーによる意見収集 <枚数：348>

原町田大通りに期待すること（主な意見）



【場所】

- ・ 休憩場所
- ・ 座れる場所
- ・ 緑／自然
- ・ 音楽演奏
- ・ ステージ
- ・ 映画館
- ・ イベント
- ・ 芝生
- ・ カフェ
- ・ 歩行者天国

【まちの状態】

- ・ 治安がいい
- ・ 雰囲気がいい／綺麗
- ・ 夢がある
- ・ やさしさあふれる

【やってみたい】

- ・ 遊ぶ
- ・ スケボー
- ・ 食事

効果・反響

SNSを通じて発信を行い、多くの反響を得ました。各方面から視察や取材も。

Instagram



Twitter



視察・取材 敬称略／訪問順

【視察】

- ・札幌大通まちづくり株式会社
- ・原町田大通り周辺商店会長
- ・町田商工会議所会頭・副会頭
- ・相模原市南区地域振興課
- ・横浜国大・横浜市大学生
- ・東京都
- ・川崎市
- ・about your city 小泉氏

【取材】

- ・国土交通省
- ・日大 泉山研究室
- ・UR都市機構
- ・株式会社ドーコン
- ・株式会社YADOKARI
- ・ジェイコム株式会社

事前懸案事項

想定される懸案項目について対策を講じました。

NO	項 目	対 処 措 置	実 施 結 果
1	パークレット内への夜間侵入者・酒宴・騒ぎ	①侵入防止ネット、コーン/バーの設置 ②監視カメラの設置（会場内、会場外）	・無し（カメラ録画で確認）
2	パークレット・周辺歩道の夜間のゴミ散乱	①朝、晩1時間の清掃（7時と18時） ②清掃員および警備員からの毎日の報告	・パークレット内に6回のゴミ散乱を確認したが、人の侵入ではなく外側からの投げ入れであることをカメラ録画で確認した
3	スピーカーの音量による周辺店舗への影響	①スピーカーの方向と音量調整で対処 ②事前の音量チェック ③周辺店舗への事前説明	・近隣ビルの入居店舗（1店舗）から商談に支障があったとの苦情が入った
4	実験期間中の企画の影響で歩道に人が滞留すること	①企画主催者に事前に指導・注意 ②沿道店舗側への事前説明 ③当日は警備員とスタッフで注意・誘導	・11/28 企画準備中に発生したが、実施中は警備員により制御できた ・12/4 に実施企画、取材、調査事業が重なり、その影響で店舗前の歩道に人が集まったり、関係者が店舗敷地内に入ったりし、後日、近隣ビルの入居店舗（1店舗）から苦情が入った
5	パークレット開場中の飲酒の規制について	①注意書きの掲出 ②警備員と現場スタッフによる警告	・11/28 企画最中に2名が飲酒を始めたのでスタッフにより注意した
6	普段パークレット設置場所に駐停車で利用している車両が、社会実験中に周辺道路に移動することによる影響	①事前に周辺道路にステカン設置で周知 ②周知広報等で実施期間の協力の掲載	・沿道店舗の荷捌きやゴミ収集車作業に支障が出たとの意見があった

原町田中央通り社会実験2021 ENJOY! STREET!

＜社会実験の目的＞

原町田中央通りは、「町田市中心市街地まちづくり計画(2016年)」に掲げる「個性と魅力あふれる商店街づくりプロジェクト」の先行地区として、無電柱化事業の実施に合わせて沿道空間を活用した通りの魅力づくりに取り組んでいます。

日常的に沿道空間を活用できる仕組みや体制を検証するため、社会実験を実施しました。

＜社会実験の概要＞

- ◆ 実施期間 2021年11月20日(土)～12月20日(月)
- ◆ 実施時間 午前11時～午後5時(車両通行規制:午前11時～午後7時)
- ◆ 実施場所 原町田中央通り(原町田大通り～文学館通りの区間)の沿道空間
(市街地整備拡幅要綱に基づき敷地後退をした部分)
- ◆ 実施内容 沿道店舗による商品陳列、テラス席等の利用(下図青丸の店舗)
公募により決まった第三者による出張販売やワークショップ等の利用
(下図 A、C、D のエリア)



- ◆ 実施準備 参加店舗、エリアに実験場所を白テープで区画
サイン入りフラワーポットの設置
共通木製ワゴンの制作(事務局1、貸出3)



＜社会実験の様子＞

- ◆ 沿道店舗の様子



◆ 第三者利用の様子

飲食物販売



物品販売



体験・ワークショップ



ベンチ・テーブル



企業PR



<検証結果>

参加状況 沿道店舗:15店舗

第三者利用:31申請、42出店者、103出店(同一出店者による複数日利用をカウント)

社会実験中の来街者、沿道店舗の参加者、第三者利用の出店者にアンケート調査を行いました。

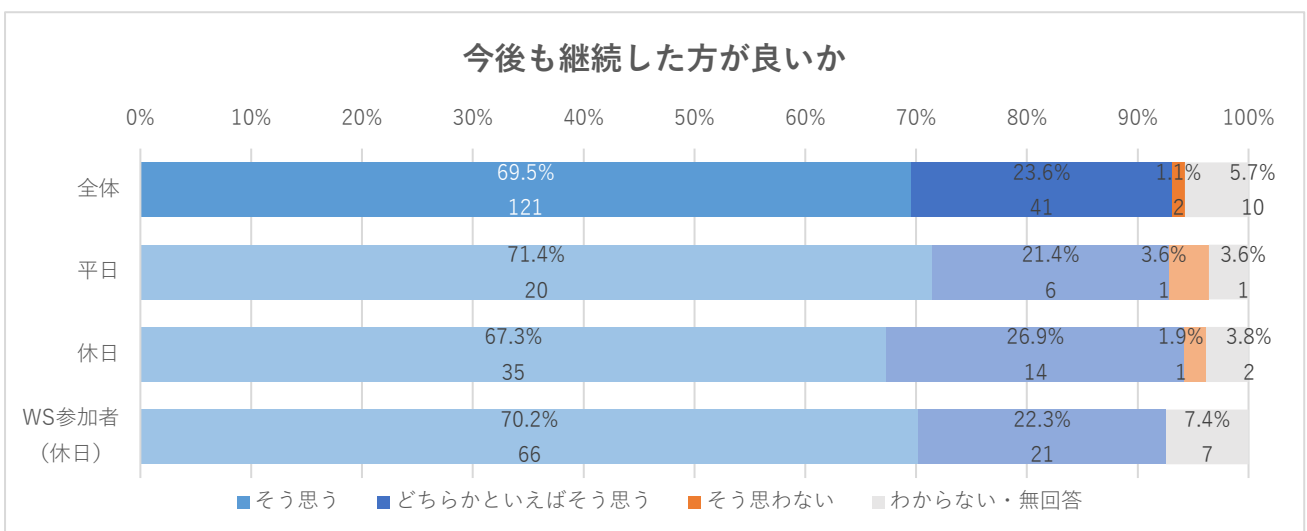
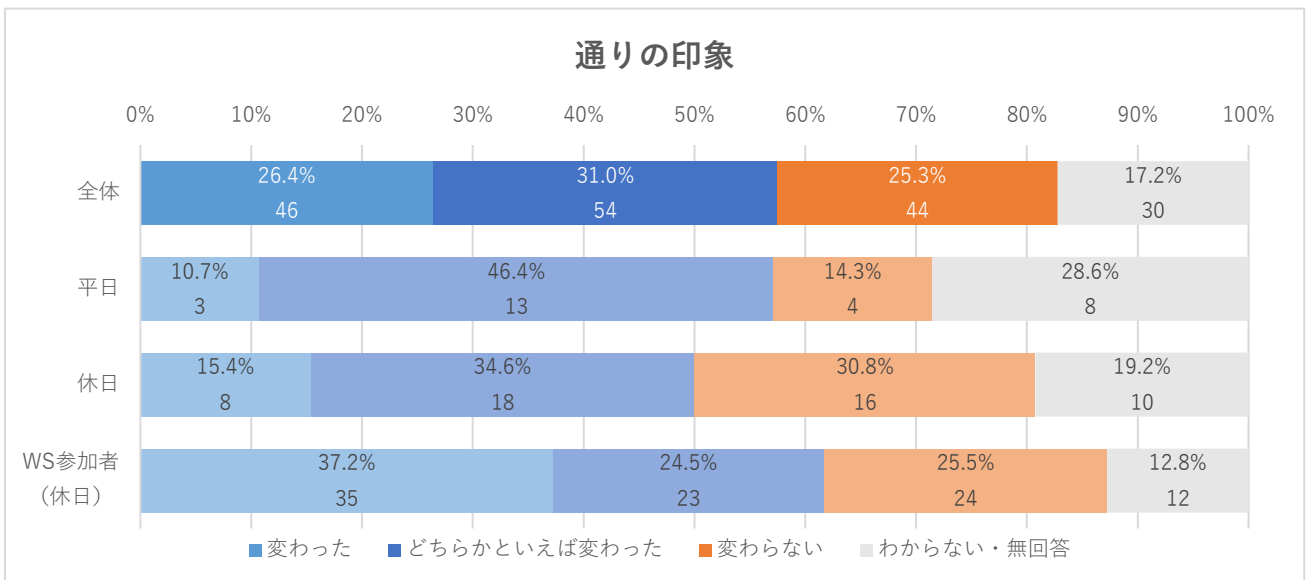
回答数 来街者174件

沿道店舗の参加者 12件

第三者利用の出店者 30件

来街者からは、沿道空間を活用する取り組みに対して高い評価が得られました。

「通りが賑やかになった」、「明るくなった」、「ただ歩く道から歩いて楽しい道になった」という声が寄せられました。全体の9割以上の方から、今後の継続性について肯定的な回答をいただきました。

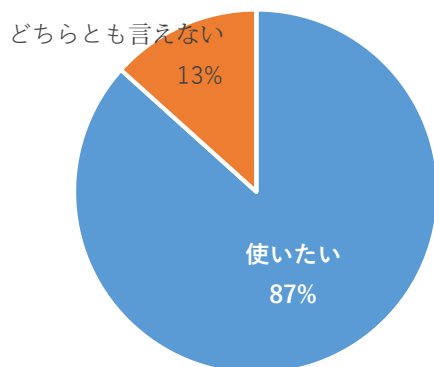


第三者利用の出店者、沿道店舗の参加者から今後の利用について高い評価が得られました。

◆ 第三者利用の出店者

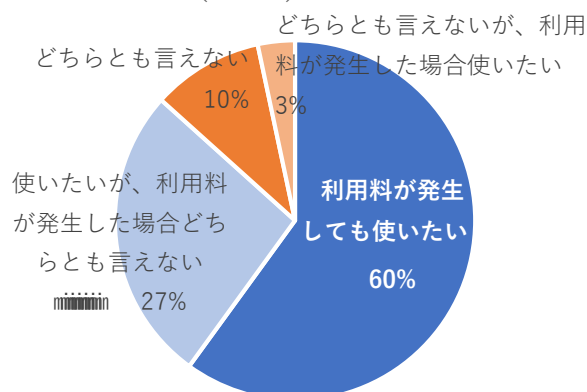
今後も使いたいと思うか

(N=30)



利用料金が発生しても使いたいと思うか

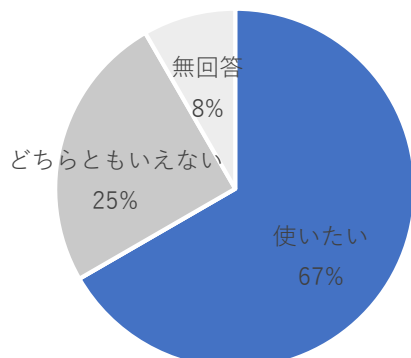
(N=30)



◆ 沿道店舗の参加者

今後も使いたいと思うか

(n=12)



第三者利用の出店者は、9割近くの方が今後も使いたいと回答し、「PR できた」「人通りが多い」という声を多数いただきました。また、6割を超える方に利用料が発生しても使いたいと回答いただき、使いたくないという方はいませんでした。

沿道店舗の方は、7割近くの方に今後も使いたいと回答いただきました。

沿道店舗と第三者利用の出店者でコラボ商品を販売した等、今後の販売の繋がりが出来た事例も複数あり、販売・PR の場としての可能性を示すことが出来ました。

PR 不足、場所や時期の見直し、沿道店舗の参加などが今後の課題として挙げられました。

来街者、第三者利用の出店者、沿道店舗の参加者全てに共通して挙げられた改善点が、取り組みの認知度の低さでした。取り組みが定着していくために、PR 方法の工夫が必要です。

第三者利用については、季節や曜日など開催時期の設定、出店場所の集約や区画設定などの工夫、季節や使い方による料金設定等を今後検討していく必要があります。

また、普段沿道空間を利用していない沿道店舗の方の参加が少なかったことも課題として挙げられました。

<今後>

2022年度は、2021年度策定する沿道空間活用についてのガイドラインを試行的に運用します。

地元の方々と今回の社会実験で挙げられた課題を基に運用ルールを検討し、社会実験により検証、見直しを行い、運用体制を構築します。